

リは主に砂泥質の干潟に生息している貝類です。貝類の組成や古環境から、身近に広がっていた干潟で貝類を採っていた可能性があります。出土した貝類の大きさは、小形のものが目立っています。マガキ、ハマグリともに2～3cmの大きさの殻が最も多く出土しています。

魚類・鳥獣類について

貝塚からは、台地上の遺跡では残りにくい骨類が出土します。当遺跡の貝塚でも、魚類、鳥類、獣類の骨や歯などが出土しています。調査の際は、貝塚を掘った土を捨てずに土のう袋に収納し、水洗作業を行いました。その結果、小形魚の骨や微小貝類なども拾い上げることができました。これらの自然遺物は、当時の人々の暮らしを考える上で良好な資料となります。

魚類は、アカエイ、トビエイ、サメ、サメ・エイ類、ウルメイワシ、ニシン亜科、ニシン科（イワシ_ナ）、サヨリ、メバル、コチ、スズキ、ブリ、アジ、クロダイ、マダイ、タイ科、シログチ、サバ、ヒラメ、カレイ、アイナメ、ボラ、ハゼ、ウナギの24種類が出土しています。身近な内湾から河口付近において、小形の魚を捕獲することを中心とした漁労活動が行われていたと考えられます。漁労具としては、釣針、ヤス状刺突具、土器片錘、石錘、浮子とみられる軽石製品が出土しています。釣針が少なく、土器片錘が多いことから、投網漁や刺網漁のような網漁が盛んであったと考えられます。

鳥類は、キジ科、カモ科、カラス科、クイナ科などが出土しています。なかでも、キジ科やカモ科の骨が多く出土しています。

哺乳類は、イノシシ、ニホンジカ、ノウサギ、イヌ、タヌキなどの骨が出土しています。イノシシの骨が最も多く、中でも幼獣が多いと考えられます。イヌは縄文時代に狩猟用として飼育されていたといわれています。イノシシやニホンジカの骨、角、歯などは、骨角器として利用されています。

調査の成果

当遺跡の貝塚の特徴として、小形の貝類が多く出土しているという点が挙げられます。小形の巻貝については、身を利用するだけでなく、出汁としても利用されたという説もあります。また、中期において内湾の奥部に形成された貝塚は、地点貝塚と呼ばれる小規模のものが多く、厚さ約2mの斜面貝層が形成されたことも特徴の

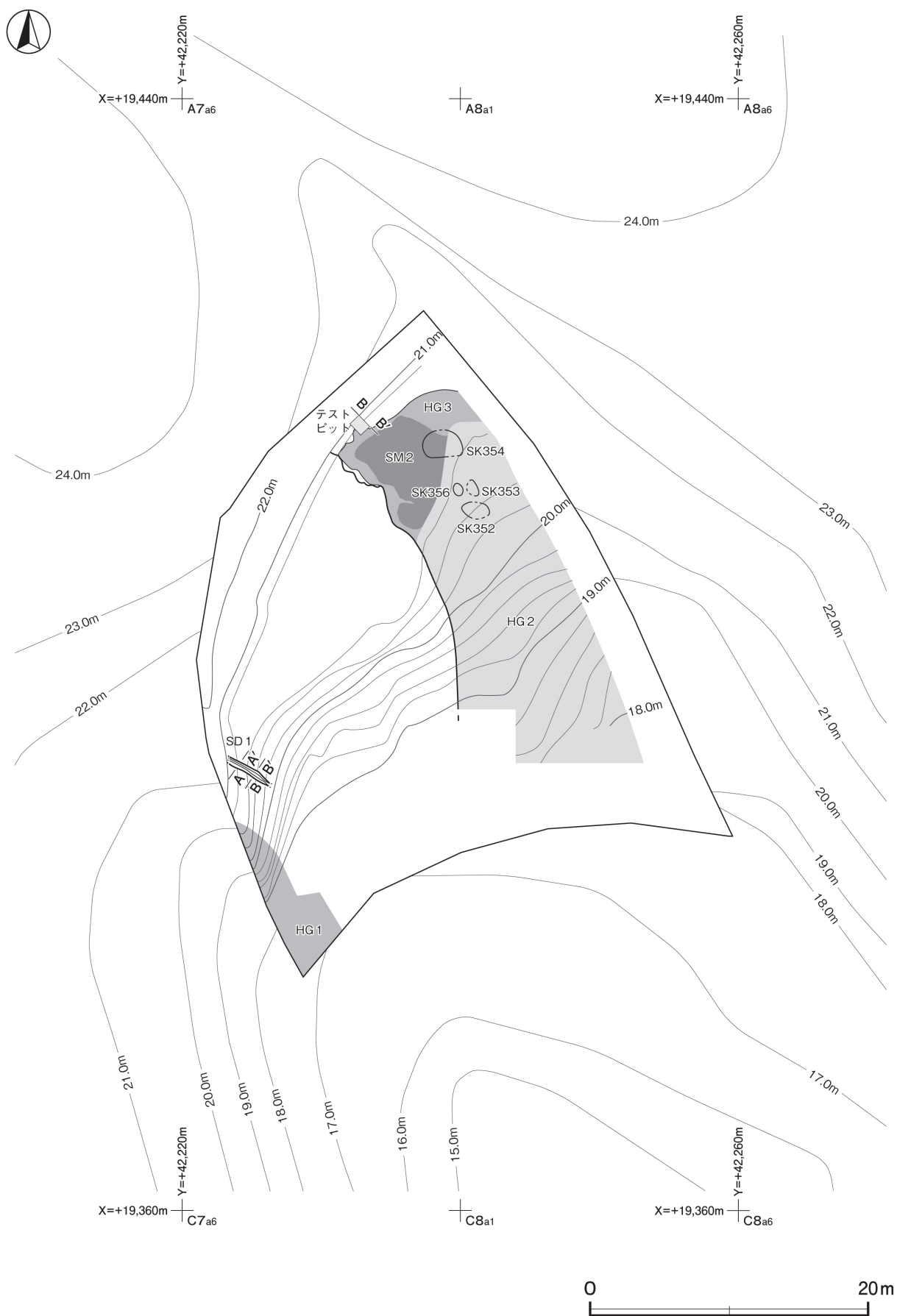
ひとつです。身近に広がっていた干潟で入手しやすかったとみられるマガキやウミニナなどの貝類、湾内や河口付近で捕獲できた魚類は、当時の人々にとって利用価値の高い食料資源だったと考えられます。これらの水産資源や鳥獣類を安定して入手できる環境は、定住する上で重要な条件のひとつといえるでしょう。

今回の調査で、貝類、魚類、鳥獣類などの食料資源の利用状況がわかり、霞ヶ浦沿岸における漁労活動、狩猟活動、採集活動などについて検討するための資料を蓄積することができました。

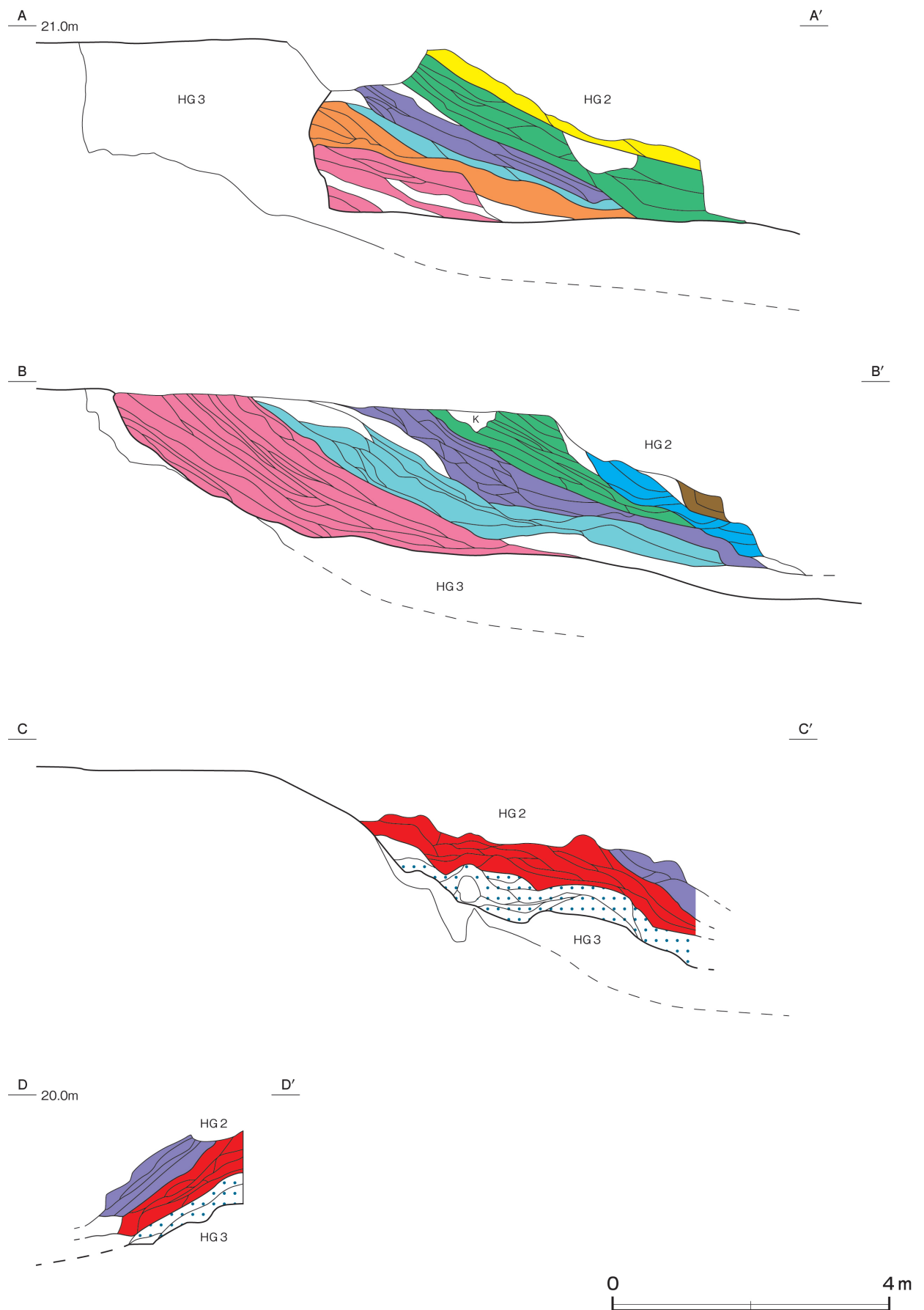
石岡市内では、宮平遺跡と三村城跡で中期に形成された貝塚が確認されています。それぞれ土坑内の覆土中に形成された地点貝塚です。カキやウミニナが多く、当遺跡における貝類の様相と類似しています。今後、霞ヶ浦沿岸において貝塚調査例が増加したり、当遺跡の今後の報告を踏まえた検討を行ったりすることで、当時の社会や生業の様子などにさらに迫ることができると期待しています。

参考文献

- 安藤敏孝ほか『宮平遺跡発掘調査概報』石岡市教育委員会
1989年3月
- 石川功『海と河と縄文人―霞ヶ浦の古環境と遺跡―』上高津
貝塚ふるさと歴史の広場 2012年3月
- 木村光輝・海老澤稔『東田中遺跡 中津川遺跡2 一般国道6号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）事業地内埋蔵文化財調査報告書8』茨城県教育財団文化財調査報告第407集 2016年3月
- 栗田功『三村城跡 一般県道飯岡石岡線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第299集
2008年3月
- 作山智彦・見越広幸『東田中遺跡2 一般国道6号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書10』茨城県教育財団文化財調査報告第434集 2019年3月
- 関口満・亀井翼「霞ヶ浦の貝塚研究史」『霞ヶ浦の貝塚と社会』明治大学日本先史文化研究所 先史文化研究の新視点V 雄山閣 2018年2月
- 西野雅人「縄文中期の大型貝塚と生産活動―千葉市有吉北貝塚の分析結果―」『千葉県文化財センター研究紀要』19 千葉県文化財センター 1999年3月



第2図 東田中遺跡4区遺構全体図（茨城県教育財団文化財調査報告第434集より引用）



第3図 第2号貝層実測図（茨城県教育財団文化財調査報告第434集より引用）